

## 編集後記

この夏、爪甲脱落症で受診する患児が増えていますが、原因は今年大流行したコクサッキーA6(CA6)による手足口病です。CA6による手足口病は、皮疹の分布も通常と異なり体幹四肢の広範囲に分布し、発症数週間後に爪甲脱落症を一過性に生じることがあるので、初診時の保護者への説明が大切です。

今回の誌上ギャラリーは、天辰健二先生の撮影された「雄川の滝」、昨年の大河ドラマ「せごどん」のオープニングでも印象的だった美しい滝壺の水色を鑑賞ください。

論説と話題は、九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会の報告と臨床検査センター建設進捗状況の報告です。私は、6月26日の定時代議員会で新臨床検査センター建設について初めて知ったのですが、すでに仮設検査センター建設工事は始まったようです。

今回の学術は3題。一つ目が「鹿児島市学校心臓検診40年の歴史を振り返って～世界に類を見ない素晴らしい検診～」と題した田中裕治先生の論文です。意外に思われるかもしれませんが、学校保健活動は世界で日本だけで実施している制度です。健康診断業務が始まったのは、学校保健法（現学校保健安全法）制定された1958年で、就学時、定期、臨時および職員検診があります。1973年に心臓検診が、1995年に心電図検診が義務化されましたが、鹿児島市は全国に先駆け1979年、全小学校1年生の心臓検診の開始を皮切りに対象児童生徒を拡大し、40年の長きにわたって実施してきました。その膨大な検診結果は、世界にも例を見ず、現代の私たち学校保健に関係する者にとって大変誇りに思えることであると共にこれまで関係された皆さんのご苦労に敬意を表します。残りの2つは、市外科医会総会での鹿児島大学大学院脳神経外科の吉本幸司教授による講演と市内科医会例会での滋賀医科大学社会医学講座の一杉正仁教授による講演要旨です。特に一杉正仁教授

の講演は、「高齢者の自動車運転事故は運転中の体調変化による事故が少なくなく、予防のために持病の管理が大切」という自動車運転をしている高齢者を診察される先生にとって指導の指針となる内容なので、是非ご一読ください。

くすり一口メモは、エメダスチンマル酸塩貼付剤のお話です。貼付剤だと経皮吸収でゆっくりと血中濃度をあげて維持できるので、有効な効果を引き出した上で眠気などの副作用は軽減できるようです。ただし、僕のように絆創膏や湿布等でかぶれる人間はすぐにアレルギー性接触皮膚炎を発症しそうですし、長期使用中に感作されて発症する危険性があるので、使用前の問診、再診時のチェックは大切でしょう。

古庄弘典先生の切手が語る医学は226回目、先生は私が開院した時の紫南支部の支部長で、大変お世話になりました。今回、紫南支部に再入会され、先日の支部会で久し振りに再会した際に「切手コレクションは潤沢にある」と話しておられたので、珍しい医療関連切手はこれからも楽しめそうです。

リレー随筆は、鹿児島大学大学院心臓血管内科の川浪 優先生の「朝ごはんを食べよう」です。文中に出てくるお母さんの「朝ごはんをちゃんと食べんば、1日頑張れんよ。」は、文部科学省も後押しをしている「早寝早起き朝ごはん」全国協議会のホームページに「毎日朝ごはんを食べている子供の方が学力調査の平均正解率や体力合計点が高い傾向にある」と載っているように、まさに正鵠を射る言葉です。

いよいよ、ラクビーW杯日本大会が開催されます。鹿児島で事前合宿した南アフリカチームもですが、それ以上に、前回の南アフリカ大会で奇跡の大躍進と賞賛された日本チームの活躍を期待して応援しましょう。

ファイト イッパーン！

（編集委員 島田 辰彦）